



第264號 (第 23 卷)

(昭和18年) 第 6 號

卷頭

隨筆

會員諸氏はもつと勉強せられたし

Members, Keep Hard and Active!

山 本 一 清 *Issei Yamamoto.*

かねて、いろんな方面から要望があつたことが愈々科學知識普及會の幹旋によつて具體化して、去る四月から東京に於いて高等天文學の講義をすることとなり、その最初の第一期を、六月まで續けて、自分はいま“基本天文學”を講じつつある。今日の時局下でもあり、聴講者が10人も集まれば宜いかと思つてゐたのに、蓋を開けて見ると、20人ばかりの申し込み者があり、尙、2日目、3日目ごろにも新しい聴講者があるといふ有様で、主宰者も、講義する者も、一寸驚いてゐる形である。しかし、之は考へて見ると、理解し得られないことがらでもない。“天文學は非社會的だ”とか、“一般人には向かない”とか、“役に立たない學問だ”とか言ふいろんな批評は、とつくの昔のことになつて了つて、日本語で書いた天文書も、今は非常に増加したし、一般人士の天文に對する關心も、飛躍しつつあることは周知の通りである。既に、今から五六年も前、“天文書は皆千遍一率だ”などといふ皮肉な批評を受けたことさへある。著作者の方で、いつまでも讀者を甘く見て、通俗な天文書ばかり書いてゐる間に、讀者の方では、チャンと一通りの知識は卒業して了つて、もつと進んだ程度のものを求めてゐるのだ。一口に天文趣味と言つても、その趣味は昔日のものと比べものにならないほど高い所へ進展しつつある。社會の人は年齢の上に於いて絶えず新陳代謝してゐるため、初等級の天文書の讀者は決して減するものではないけれど、同時に、又、どしどし高尙な知識の要求者が現はれつつあるといふ事實も、考へなければならぬ。

本會の會員名簿を見ると、今日の如き戰時下にも、會員數は非常な増加ぶりであり、今は殆んど配給される用紙の限度を越えんばかりであり、事實上、會員には定員が定められてゐるやうな形で、誰かが退會でもしなければ新會員は入り

得ないといふ時機に近づきつゝあるが、中にも最近では東京と大阪とに會員數が増しつゝある。そして、此の都會人士の中には相當に高級の知識を追求してゐる人があるのである。それで、昨年末の頃から、アマチュア天文界の指導者養成といふ目的のためにも、大阪と東京には高等天文學の講座を、本會として設けなければならない氣運にあることを感じてゐた。そして、大阪に最初のものが生れるかとも考へられたが、遂に東京の方が先づ具體化した次第であるが、しかし、大阪にも近く同様なものが開かれると思ふ。

東京の講義を開いて見て、驚いたことは、二十何人の聽講者中に、本會員は少なく、むしろ其れ以外の“かくれたる”篤志家が多い事實である。勿論、これには、“天界”や“急報”に報道される以前に、“科學知識”誌の報道が有効に行はれたこと、それに、日や、時刻などの都合により、前後10回にわたつて、無休聽講の出来る境遇に恵まれる人が、社會的に多くないのにもよるのだらう。しかし、それは、本會の會員にも、會員以外にも同様である。思ふに、本會員と會員以外たるを問はず、この種の高級の知識を求めてゐる人は、東京だけにでも何百人とあるのだらうと思ふ。只、日と時間の都合の中から、特に恵まれた人と熱心篤學な人とが二十數人選び出されたといふわけなのである。

しかし、又、他の一面から見ると、殆んど本邦唯一の天文知識普及團體たる本會の會員のほかに、夥しき人々が高等天文學を熱望しつゝあるのに比べて、本會員自身は未だ未だ勉強が足りないといふ傾向があるのではないだらうか？社會はあらゆる意味に於いて絶えず進歩してゐる。しかるに過去22年間の生存を續けて來た本會の内容に、殊に其の機關雜誌たる“天界”の内容に、眞に眼覺ましい進歩が見られるか、否か？讀者諸氏と共に反省して見たいと思ふ。

勿論、天界にも多少の進歩はある。最近の“天界”について、編輯に對して満足を表せられる手紙が毎月五六通は來てゐる。尙、又、“急報”の購讀者は、元々100名の定員といふのが、今は200名を突破して、謄寫印刷の限度を脅しつゝある盛況である。しかしながら、自分は此うした數の増加に驚かない。むしろ、“天界”でも、“急報”でも内容と質とに関心を持たざるを得ない。

結局、吾々自身がもつと勉強しなければならない。本會々員たちは、其の周圍を顧みて、“自分は天文を知つてゐる”といふ自負と満足を感じたのは、過去となり、今や、うつかりしてゐるうちに、ほかの人の方が天文ファンとしてもどしどし進んで居るのであつて、間もなく彼等に後れを取るといふ感じは無いだらうか？五年前、十年前に熱心に讀んだ書物の古い知識に満足して、“最近は一冊も新刊書を讀まない”といふのではなからうか？知識は“進歩”を楽しむものである。自分は此の意味に於いて、會員たちに絶えず勉強を楽しめんとことをすゝめるものである。こんな理由からして自分は今回本誌の附録に＝

ウカムの Compendium を譯載することにした、勿論これは敢へて新しい書物といふのではない。しかし、初等天文學を卒へた人は次ぎに此の程度の書物を基礎として學術の殿堂の奥へ更に一步進まれんことを望むのである。

サイモン・ニウカムは、1835年に生れ、1908年に死んだ學者であるが、球面天文學上の近代の權威であつた。通俗書も澤山書いたが、Compendium の此の一書は學界の絶讃を博したものであつて、専門家も今尙座右に置くべき書物であるが、三十年來全く絶版となつて了つて、海外に於いても、殆んど手に入らない。我が國に於いても諸所の學府を通じてホンの數冊しか保存されてゐないものである。自分は之を専門家のために譯すると同時に、高等學術に接觸したいアマチュアたちのためにも、一つの標準書として提供したいのである。天文月報第34卷第74頁を見ると、故蘆野教授は此の書を水路部のために譯された由であるが、出版されてゐないから、學界には現はれない。自分は自ら之を逐字譯にしたのだけれど、どうも英文の直譯では日本語にならないので、本誌のためには幾らか自由な形に譯した。しかし、數式は一つも省略してゐないし、説明文も決して要領を棄ててゐないから、安心して讀んで頂けると思ふ。全部で200頁ぐらゐになる筈であるから完了するには2ヶ年ほどかゝると思ふが、此の間に、ゆつくり味はひ味はひ讀んで貰へば必ず益する所は多いと信じる。

總會のプログラム

既報の如く、來る六月27日(日曜日)13時より本會の定期總會を開く(但し空襲・警戒警報等あれば中止)。次第は次の通り：

場所：神戸市神戸區 神戸國民學校講堂

東海道線“元町驛”(電車のみ停車)にて下車、山の手の方へ約100米

記念講演：“天文學と國民性” 會長 山本一清氏

“北海道の日蝕” 理事 木邊成麿氏

研究報告：“新時代の天文教育について”

教育部長 高城武夫氏

事務報告：理事 中村覺氏、其他

協議と役員改選：理事長 宮森作造氏

學蹟表彰：觀測部長 木邊成麿氏

親睦と懇談：

會費不要。時局がら萬事簡略とし、例年の晚餐會は行はず。
16時頃に終了の見込。

(1943-5-20)

東亞天文協會